

概要版

田村市 地域新エネルギービジョン



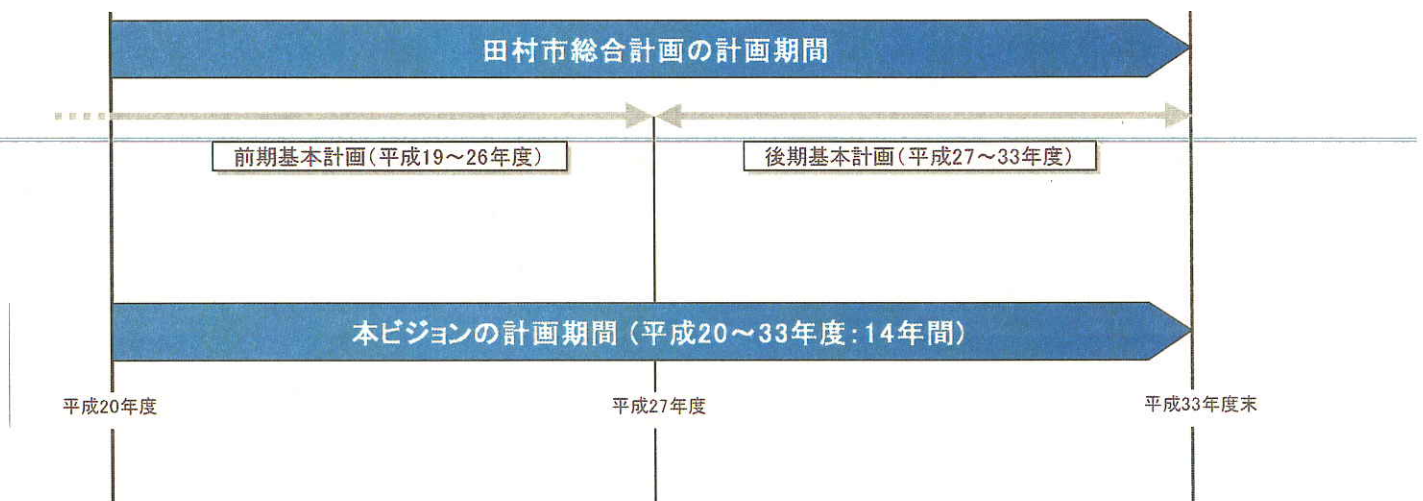
平成20年2月 福島県田村市

新エネルギー導入の必要性

地球は今、温暖化など深刻な環境危機に直面しています。二酸化炭素などの温室効果ガスを削減するためには化石燃料に依存せず、持続的利用が可能な新エネルギーに移行する必要があります。

田村市ではこのほど、太陽光エネルギーや風力エネルギー、バイオマスエネルギーなどの普及促進を図るため、その方向性を定めた「田村市地域新エネルギービジョン」を策定しました。新エネルギーを活用しながら、本市の地域特性に根ざした持続可能なまちづくりに向け、さまざまな取り組みを進めていきます。

新エネルギービジョンの計画期間



新エネルギー導入の基本方針

新エネルギー導入に関する基本方針

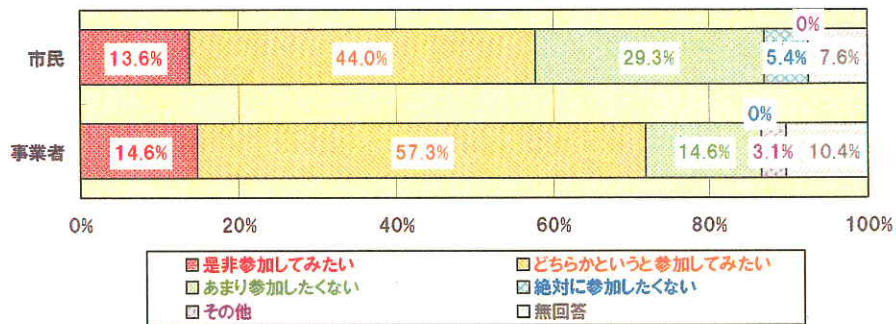
基本方針1:新エネルギー導入の重要性を市民・事業者・行政の共通認識とする

基本方針2:未利用のエネルギー資源を見直し、循環型社会を形成する

基本方針3:豊かな自然資源を活用し、地域活性化に寄与する

基本方針4:市民・事業者・行政の協働による新エネルギー導入を展開する

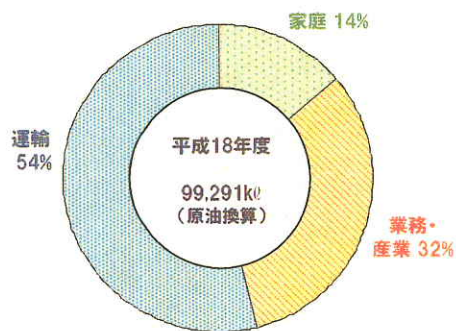
新エネルギー導入プロジェクトへの参加意向



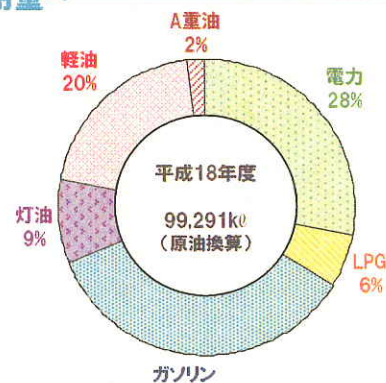
(市民・事業者に対するアンケート調査結果より)

田村市のエネルギー使用状況

～エネルギー使用量～

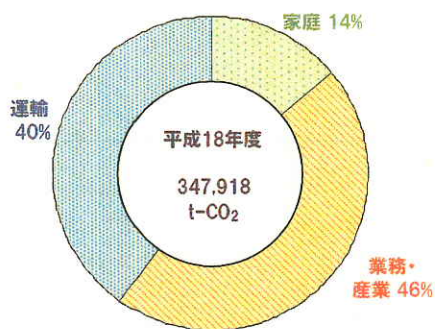


【部門別使用量】

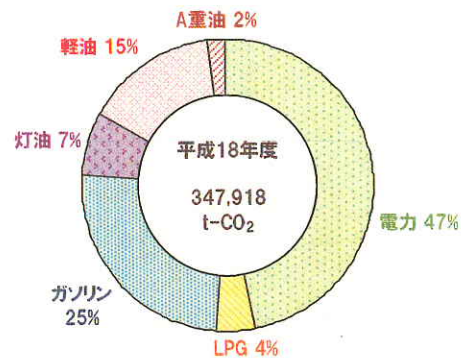


【エネルギー別使用量】

～二酸化炭素排出状況～



【部門別排出量】



【エネルギー別排出量】

※家庭:家庭生活に伴うもの(自動車は含まない)、業務・産業:事業活動に伴うもの(自動車は含まない)、運輸:自動車の走行に伴うもの

新エネルギー導入プロジェクト

重点推進プロジェクト

環境教育プロジェクト

地域社会全体が子どもたちとともに地球環境の保全について考えることは、将来にわたって持続可能な資源循環型社会を築くうえでも重要な取り組みです。

学校教育、生涯学習、地域活動など、さまざまな場において、地域や企業、関係機関と連携しながら環境・エネルギーに関する学習機会の拡充を進めます。

活動内容

- 小・中学校の環境学習の推進
- 企業等の自主的活動の促進



《 講演の様子 》



《 環境教育セミナー 》

廃油リサイクルプロジェクト

廃油を利用した BDF(バイオディーゼルフューエル)製造の検討と石けんづくりの支援など、資源循環型の活動を促進するとともに、エゴマや菜種の栽培など遊休農地の活用と地場産業の活性化を図り、エネルギーの地産地消を推進します。

活動内容

- BDF 製造の検討
- エゴマ・菜種栽培の推進
- 廃油石けんづくり活動の支援



《 船引町商工会女性部の取り組み 》

資料:エコ・ビュアホームページ

木質バイオマス有効利用プロジェクト

植物は、燃やしても地球温暖化の原因である二酸化炭素を増加させない性質を持っています。

本市には新エネルギー資源として利用可能な木材資源が豊富にありますが、十分に活用されていないため、木質バイオマスボイラーの導入などを積極的に検討します。

活動内容

- 木質バイオマスチップボイラーの導入
- ペレットボイラーの導入



《 木質ペレット燃料 》

風エネルギーを活かしたまちづくりプロジェクト

豊富な風エネルギーを活用することにより、風力発電事業者などと連携しながら風車のある風景を新たな観光資源としてPRするとともに、将来を担う子どもたちに希望を与える風力エネルギーのまちとしてアピールします。

風力発電に有望な地域が多いことを積極的に発信し、風力発電事業者のさらなる参入を促進します。

市が実践する取り組みの例

- イベント活動:「風車まつり」など多彩なイベントをととした憩いの場の提供
- 環境教育活動:市内の小学生などを対象とした省エネ活動
- 風力発電事業者の誘致活動:建設候補地や他の新エネルギー導入を模索し、最新の情報を発信
- 風力発電事業者と連携した新たな新エネルギー導入:自然エネルギーパークの形成

など

太陽エネルギー利用プロジェクト

良好な日照条件から生まれる豊富な太陽エネルギーを発電・熱に積極的に利用します。

活動内容

- 公共施設
公共施設の新築・改築時に太陽光発電・太陽熱利用設備の導入を検討します。
- 教育施設
環境に配慮した「エコスクールパイロットモデル事業」を進めます。
- 市民・事業者への導入
安価な太陽熱温水器の導入を促進するとともに、太陽光発電の普及啓発を図りながら導入を促進します。



《 老人憩いの家 針湯荘 》



《 天地人大学 》

観光と自然エネルギーの共生プロジェクト

豊かな自然環境を活かした観光施設と自然エネルギーの融合・活用を図り、観光事業の活性化につなげます。

導入する観光施設の例

- あぶくま洞・入水鍾乳洞
- 仙台平
- グリーンパーク都路
- こどもの国ムシムシランド
- 高柴山などの山々



《 あぶくま洞 》

【導入案】

・洞内から流れ出る水を活用したマイクロ水力発電導入によりライトアップの電源とし、来訪者に自然エネルギー利用をPRする。

新エネルギー導入補助プロジェクト

新エネルギー設備導入時のコスト負担に対応するため、市民・事業者の新エネルギー導入に対する補助制度を検討します。

新エネルギー導入補助制度(案)

- 太陽光発電:1kW あたり数万円
- 太陽熱利用:機器導入価格の数パーセント
- クリーンエネルギー自動車:車両本体価格の数パーセント
- ペレットストーブ:1 台あたり数万円

推進プロジェクト

プロジェクト名	事業概要
省エネルギー活動への取り組み	● 省エネルギーは新エネルギーと同様に重要であり、市民や事業者とともに省エネルギーに向けた取り組みを推進します。 ● 大きな省エネルギー効果が得られる「ESCO(エスコ)事業」や一般家庭・事業所でも取り組み可能な「環境家計簿」、「省エネナビ」、「マイバッグ推進運動」などを推進します。
廃棄物エネルギーの利用	● 廃棄物焼却施設の更新時に廃棄物発電・熱利用施設の導入を広域行政組合等と連携を図りながら進めます。
燃料電池の導入 (コージェネレーションを含む)	● 実証実験が行なわれている家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの導入を技術開発動向に応じて検討します。
小型風力発電の導入	● 小規模な太陽光発電システムと組み合わせたハイブリッド式の風力発電を公園や公共施設、校庭などに導入します。 ● 小型風力ハイブリッド発電施設の設置モデル地区を設定し、防犯灯・街路灯など照明設備に活用します。
マイクロ水力発電の導入	● 長期的視点から農業用水路などへの導入可能性を検討します。
クリーンエネルギー自動車の導入	● 公用車更新時にハイブリッド自動車などクリーンエネルギー自動車を導入します。 ● 市民や事業者への普及に向け、重点推進プロジェクト「新エネルギー導入補助プロジェクト」と連携しながら導入を促進します。

① 新エネルギー導入の重要性を市民・事業者・行政の共通認識とする

市民・事業者・行政が地球環境問題やエネルギー問題などに対する理解を深め、これまで以上に多様な学習活動や市民への情報提供、市民参加により新エネルギー導入の重要性について意識啓発を図っていきます。

② 未利用のエネルギー資源を見直し、循環型社会を形成する

これまで利活用が不十分である廃棄物などを「もったいない」の精神に基づいてエネルギー資源として活用するとともに、省エネルギー活動を促進することにより、循環型社会を目指します。

③ 豊かな自然資源を活用し、地域活性化に寄与する

本市に豊富に存在する太陽エネルギー、風力エネルギー、バイオマスエネルギーなどの新エネルギー資源を利用し、新エネルギー関連産業の振興を図るとともに地域の活性化につなげます。

④ 市民・事業者・行政の協働による新エネルギー導入を展開する

本市では総合計画の「市民参加の郷づくり・まちづくり」を具体化するため、市民・事業者による新エネルギー導入を促進するとともに、地球温暖化防止や環境保全への貢献が実感できる取り組みを支援していきます。

新エネルギーの導入目標

計画期間が終了する平成33年度末までの新エネルギー導入目標は、平成18年度に市内で使用されたエネルギー使用量を基に、原油に換算して約2,300klをめざします。

現在、市有施設に導入された新エネルギーは2箇所（常葉行政局の太陽光発電、滝根運動場の小型風力・太陽光ハイブリッド発電施設）となっています。



《 常葉行政局 》



《 滝根運動場 》

新エネルギーとは

●太陽光発電

太陽の光エネルギーを直接電気 にします。



●風力発電

風の力で風車を回し、その回転運 動を発電機に伝えて発電します。



●バイオマス燃料製造

植物等のバイオマスから燃料を製 造します。



●バイオマス発電

植物等のバイオマスからエネルギ ー源として電気をつくります。



●バイオマス熱利用

植物等のバイオマスからエネルギ ー源として熱をつくります。



●温度差エネルギー

水と大気との温度差、工場の廃熱と 外気の温度差を利用します。



●燃料電池

水素と酸素を化学反応させて、電 気を発生します。



●マイクロ水力発電

水が持つ位置エネルギーや運動エネルギ ーを利用して発電します。大規模な発電 施設に対し、数W～100kWの小規模な ものをマイクロ水力発電と呼びます。



●太陽熱利用

太陽の熱エネルギーを給湯や暖 房に利用します。



●雪水冷熱利用

雪や氷の冷熱を冷房等に使いま す。



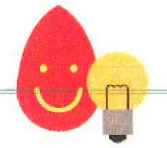
●廃棄物燃料製造

廃棄物から燃料を製造します。



●廃棄物発電

廃棄物の焼却時の排熱を発電に 利用します。



●廃棄物熱利用

廃棄物の焼却時の排熱を熱として 利用します。



●天然ガスコージェネレーション

天然ガスを燃焼させて発電し、その際 に発生する熱を利用します。



●グリーンエネルギー自動車

天然ガス自動車、電気自動車、メタノ ール自動車と、それらを従来型エンジ ンと組み合わせたハイブリッド自動車 の4種類があります。



● 発 行 ●

田村市 企画調整課

〒963-4393 福島県田村市船引町船引字馬場川原 20

電話:0247-81-2135 FAX:0247-81-2522

ホームページアドレス:<http://www.city.tamura.lg.jp/>

電子メール:tam-kikaku@city.tamura.lg.jp